

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

### (1) 資産及び負債・資本の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末より8,348億円増加し、12兆5,852億円となりました。これは、新規投資及び金融市場の混乱に対応した手元流動性確保による現預金の増加や、商品市況の上昇などによる営業債権及び棚卸資産の増加により、流動資産が増加したことに加え、親会社などでの上場株式の含み益減少があったものの、増資の引受などに伴う関連会社宛投資の増加や海外資源関連子会社の新規権益取得による有形固定資産の増加があったことにより、固定資産が増加したことです。

負債は、前連結会計年度末より8,303億円増加し、9兆3,728億円となりました。これは、金融市場の混乱に備えて前広に資金調達を実施したことや、運転資金等の資金需要などに伴い、有利子負債が増加したことによるものです。

また、有利子負債総額から現金及び現金同等物を控除した有利子負債額(ネット)は、前連結会計年度末より3,657億円増加して3兆7,876億円となり、有利子負債額(ネット)を当第2四半期連結会計期間末の資本合計で除した有利子負債倍率(ネット)は1.3倍となりました。

株主資本は、前連結会計年度末より70億円増加の2兆8,805億円となりました。これは、四半期純利益の積み上げがあったものの、上場株式の含み益の減少に伴う未実現有価証券評価益の減少や、円高に伴う為替換算調整勘定の減少などがあったことにより、微増に留まったものです。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物残高は、前連結会計年度末と比べ2,779億円(37.1%)増加し、10,281億円となりました。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において、営業活動により資金は673億円増加しました。これは、商品市況の上昇や営業取引の堅調な推移により、運転資金負担が増加したものの、資源関連子会社での取引収入が増加したことや、資源関連を中心とした投資先からの配当収入が堅調に推移したことにより、資金が増加したものです。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において、投資活動により資金は3,692億円減少しました。これは、千代田化工建設及び三菱UFJリースの増資引受による株式追加取得に加え、海外資

源関連子会社における原料炭プロジェクトで新規権益を取得したことに伴い、資金が減少したものです。

以上の結果、営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローの合計であるフリー・キャッシュ・フローは3,019億円の資金減少となりました。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において、財務活動により資金は5,913億円増加しました。これは、親会社において配当金の支払いがあったものの、商品市況上昇に伴う運転資金負担増への対応や、金融不安に対応して前広な資金調達を行ったことにより、資金が増加したものです。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

世界的に広がる金融危機の影響により、上場有価証券の評価損の増加、並びに商品市況の下落や円高の進行等による収益悪化が見込まれることから、2008年度の通期見通しを下方修正しております。

	2008年度(予想)	2007年度(実績)	増減
売上高	25兆円	23兆1,030億円	+1兆8,970億円
当期純利益	5,200億円	4,709億円	+491億円

また、通期見通しの前提条件は以下の通りです。

	2008年度(予想)	2007年度(実績)	増減
為替レート	103.1円/米ドル	114.4円/米ドル	△11.3円/米ドル
原油価格	87.6米ドル/BBL	77.4米ドル/BBL	+10.2米ドル/BBL
金利(TIBOR)	0.87%	0.79%	+0.08%

#### (注意事項)

本資料における業績予想や将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されています。従いまして、実際の業績は、見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。